

テーマ:

りりこの部屋へようこそ

～北っ子フェスティバルで「りりこ」を紹介しよう

愛知県刈谷市立
富士松北小学校
今井 八千代 先生
奥村 なつみ 先生

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

「りりちゃん」を大切に育てて
食べた感動から
「伝えたい」活動に発展！

「凜々子」活用のポイント②

冷凍トマトを使った
ドライマト加工に
粘り強く取り組む

「凜々子」活用のポイント③

相手に楽しんでもらう
発表の仕方を工夫し
カフェ風ブースで発表

活動のねらい



- 友達と協力しながら、「凜々子」の世話をを行う。
- 「凜々子」を使った料理を楽しみ、おいしく味わう。
- 「凜々子」の成長のようすや「りりこクッキー」のレシピを紹介したり、自分たちの作ったクッキーを味わってもらったりする経験を通して、自分たちの活動をふり返り、自分のがんばりや成長に気づく。

活動の概要と流れ

対象学年：特別支援学級2～5年生（8名）

教科：生活単元学習・図工・国語（毛筆）・総合的な学習の時間

実践期間：5月～2月

時期	学習活動
4月～5月	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度の栽培活動の時間を使って、学校の隣にある教材園で草取りや畝づくりなどの畑の準備をする。
5月24日	<ul style="list-style-type: none"> 「凜々子」の苗を植える。
6月～7月	<ul style="list-style-type: none"> 芽かき、支柱立て、草取りなどの作業と、観察を行う。
7月下旬～8月	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに入ってから収穫となり、教員が随時収穫し、冷凍保存する。
9月16日	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍しておいたトマトを使って、スムージーを作る。
10月上旬～	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会に向けた発表準備を行う。 冷凍トマトを使って、ドライマトづくりに取り組む。試行錯誤の末、ドライマトが完成する。
10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ドライマトを使って、りりこクッキーの生地を作り、冷凍する。
11月1日	<ul style="list-style-type: none"> りりこクッキーを焼く。
11月3日	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会で「りりこの部屋へようこそ」と題したブース発表を行い、多くの人前で、「凜々子」の取り組みについて発表する。
2月12日	<ul style="list-style-type: none"> 市内の特別支援学級が集まる発表会で、「凜々子」の取り組みを発表する。



ここがポイント! 取り組みの工夫

「りりちゃん」に愛着をもち、大切に育て、食べた感動から学習発表へ

毎年トマトは育てていたが、今年は教務主任から「凛々子」を紹介され、いつもと違う種類を育ててみるのもよいかと思い、ジャガイモや玉ねぎなど、他の野菜とともに栽培を始めた。収穫したら調理する予定ではいたが、子どもたちが思っていた以上に「りりちゃん」と愛着をもって育てるようになったことや、食べてみると普通のトマトと異なる食感や味わいがあったこと、予想以上にたくさんのトマトが収穫できたことから、11月の学校行事「北っ子フェスティバル」で「凛々子」をテーマにした学習発表を行うことにした。

子どもたちと話し合った結果、見る人に楽しみながら「凛々子」を知ってもらえるようにと、試食付きの“カフェ風”ブースでの発表に決まった。受付、ウェイトレス、説明役の博士等、各自の役割と発表のめあてを決めて、発表準備をスタートした。

取り組みの裏話・・・

冷凍トマトからのドライトマト作り

夏休みに入ってからトマトが収穫できるようになったので、教師が随時収穫して、校内の冷凍庫に保存していきました。夏休み明けに子どもたちが収穫する頃には、ほとんどの収穫は終わっていましたが、採れたてのトマトをみんなで食べてみると、皮が固い、ゼリー部が少ない等、普通のトマトとの違いを感じることができました。また、冷凍しておいたトマトでスムージーを作ると、「おいしい！」ととても喜び、子どもたちの「りりちゃん」への愛着がさらに深まりました。

そこで、学習発表会では、見に来てくれる人たちに自分たちの「りりちゃん」のおいしさを知ってもらおうと、楽しい試食付きの発表を計画し、作り置きができるクッキーを「凛々子」の試食メニューに選びました。

ところが、ドライトマト作りは本当に大変でした・・・。

図工や毛筆など、教科と関連づけた楽しいブース作り

発表準備では、図工の時間を使ってポスターや看板作りを行った。「りりちゃん」作りでは、赤い紙を大・中・小サイズの型紙に合わせて切り取り、目は各自が好きなように作って、さまざまな表情が出るようにした。たくさん作って、看板や教室掲示に使用した。看板文字は毛筆の時間を使って書いた。(写真右)



子どもたちは、自分たちの「りりちゃん」をお客さんに紹介する姿を想像し、発表準備に積極的に取り組むようになっていった。

クッキーに入れるドライトマト作りでは、何度も失敗し、そのたびにやり直しとなったが、冷凍トマトの皮むきでは「冷たい！」と言いながらも、

懸命に皮をむき、全員で協力して全校分のクッキーを焼き上げた。

ドライトマト入り「りりこクッキー」の作り方

【材料】小麦粉 260g、バター140g、砂糖 90g、卵 1個、ドライトマト適量、バニラエッセンス 少々

【作り方】

- ①バターと砂糖をボールに入れ、やわらかくなるまで混ぜる。
- ②①に卵、ドライトマト、バニラエッセンスを加え、さらに混ぜる。
- ③②に小麦粉を加え、ヘラで切るようにさっくりと混ぜる。3cm 太さの棒状にしてラップで包み、冷凍庫で寝かせる。
- ④③を包丁で 5mm 厚さに切り、オープン皿に並べて 160℃で 20分 焼く。



※【材料】の 5 倍量で、全校分約 450 枚ができました。



解凍したトマトは包丁で切りにくい上、水分が多いので、乾く前にかびてしまうのです。干す場所や時間を変えてみたり、半生のトマトをクッキーに入れてみたりもしましたが、上手くいきませんでした。何度も実験を繰り返して、電子レンジに15分かけて少し水分を飛ばしてから、水気を切って、天日に2～3日干すという方法でようやく成功しました。10月に作業したので、乾くまでに時間がかかりましたが、真夏の暑い時期だったら、もっと早くできたかもしれませんね。

ブース発表では、他のクラスのお友達から「本当にトマト?」「おいしい!」「もっと食べたい」と、とても好評で、ブースの前には大行列ができました。子どもたちも苦労したからこそ、大きな達成感を味わえたのではないかと思います。よい経験ができました。

子どもたちの気付き、実践の成果

発表準備を通して、自分の思いを「伝える」ことを学ぶ

発表準備は、見に来てくれるお客さんにわかりやすく、また、楽しんでもらうことを意識して取り組んだ。

みんなでアイデアを出し合いながら、ポスターや紙芝居作りでは絵や写真を多く使い、「凜々子」が加工用のトマトだとわかるように、ケチャップやジュースの実物も用意した。発表で着る衣装は、「凜々子」のまっ赤な色が伝わるよう、教員がリサイクルショップで見つけた赤い服で、エプロンやスカーフを作った。

発表の練習は、一人一人が自分の役割を覚えるまで、繰り返した。受付とクッキー配りの係は、お客さんがスムーズに動けるよう、案内の仕方を練習した。「凜々子」の生長過程を発表する博士役は、ポスター等を使いながら、すらすらと説明できるようになるまで練習した。みんな粘り強く取り組み、準備万端で発表当日を迎えた。



発表当日は行列ができる大人気ブースに！役割分担が責任感と達成感を育てる！

発表当日は、300人を超える人がブースに来て、子どもたちの発表を真剣に聞いてくれた。子どもたちは、自分の役割に責任をもって取り組み、1時間半のブース発表中、途絶えないお客さんの対応に追われながらも、練習した以上の力を発揮し、自分たちの活動を堂々と発表することができた。



後日、他クラスからメッセージカードをもらい、お客さんに喜んでもらえたことを実感することができて、さらに自信と達成感を深めることができた。

■メッセージカードより抜粋

「トマトについてよく調べていましたね。お客さんにたいするせっきやくも受付も、博士も完ぺきでした。来年はもっとすごいものを見せてください。」「受付でカードをわたされて、中に入ってみると色分けですわるようにくふうされていました。」「クッキーを食べる時、

アレルギーをしゃべいで食べられるかどうか、しっかり確かめていて、えらいな—と思った。」「トマトで作ったクッキーを食べながらレシピのせつめいもしてくれたので、今度作ってみたいなあと思いました。」

先生から一言！ 実践を通して

特別支援学級では、毎年野菜を育てる活動をしています。今年は、「りりこ」という名前と、収穫して食べた時の「普通のトマトと違う！」という驚きが、子どもたちの興味・関心を高めたのだと思います。トマトが苦手な子が食べみようとしていたり、活動準備に積極性が出たりと、これまでとは違う栽培活動ができました。

私たち教師が、次の活動へと引っぱって行くのではなく、子どもたちの方から「りりちゃん」の発表を楽しみにするようになり、「次は何するの？」とわくわくする気持ちが、活動をここまで発展させたと思います。何より、子どもたち自身が思いを持って活動に取り組んでくれたことが、とても嬉しかったです。

子どもたちは、「りりちゃん」をトマトという“物”ではなく、“人”と関わっているような感覚で毎日を過ごしていました。こんな風に食べ物と関わったことも、とても嬉しく思います。

受賞理由



最初は他の野菜と同じように育てていたけれど、みんなが楽しそうに畑にやって来ては「りりちゃん」と呼んだり、話しかけてくれたりするようになって、「凜々子」もとても嬉しかったと思うんだ。みんなが「凜々子」の良さをたくさんの人に伝えてくれたから、他のクラスのお友だちや地域の特別支援のお友だちにも、「凜々子」のことをよく知ってもらえたね！発表の仕方がとても工夫されていて、見ている人もとても楽しそうだよ。ドライトマト作りも、本当に粘り強く、よくがんばりました！